

### 3 と畜検査結果の還元について

豊橋市食肉衛生検査所 ○吉川雅己、塚田真樹、本島雅昭、細井美博

#### 1 はじめに

当所では健康な家畜生産の一助とするために、平成13年度から毎月、全ての豚生産農家に対し、と畜検査結果を還元（フィードバック）している。その内容は、主な疾病別頭数や割合等を提供することの他に、依頼に基づき繁殖障害の原因調査や特定の疾病の清浄化への協力等を行っている。今回、当事業の5年間の評価を行ったのでその概要を報告する。

#### 2 調査方法

平成13年度から18年度までの豚のと畜検査頭数に対する病畜率、廃棄率等の推移を調査した。あわせて豚生産農家に当所がフィードバックしたと畜検査結果の活用等に関するアンケート調査を行い、廃棄率等の推移と比較した。

#### 3 調査結果及び考察

全部廃棄率、一部廃棄率は、ともに減少傾向がみられた。全部廃棄率は全国平均値が0.13%前後で推移しているのに対し、当所においては平成13年度に0.11%であったものが、平成18年度は0.07%に減少した（図1）。一部廃棄率についても同様に全国平均値が60%前後で推移しているのに対し、当所においては平成13年度に57.5%であったものが平成18年度は35.1%にまで減少した（図2）。また、病畜率については、平成13年度に1.69%であったものが年々減少し、平成18年度には1.16%となった（図3）。

一方、アンケート調査（回収率73.4%）の結果、86.9%の生産農家がと畜検査結果を疾病対策等に活用しており（図4）、特に肺炎対策に活用している農家の割合は他の利用目的に比べて高いことが分かった（図5）。これは肺炎による飼料効率の悪化や、増体率の減少等、他の疾病と比べ生産性への影響が大きいと推測された。

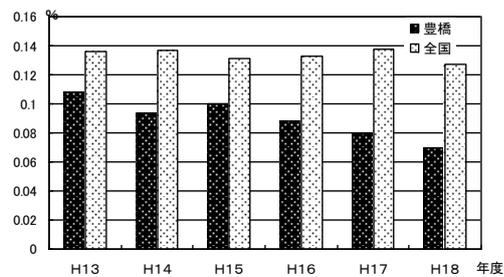


図1 全部廃棄率の推移

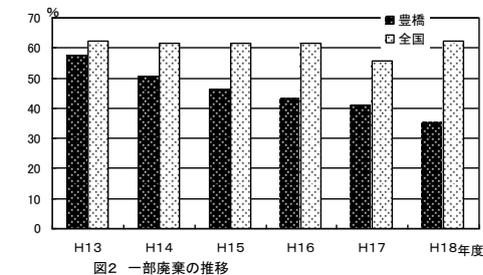


図2 一部廃棄率の推移

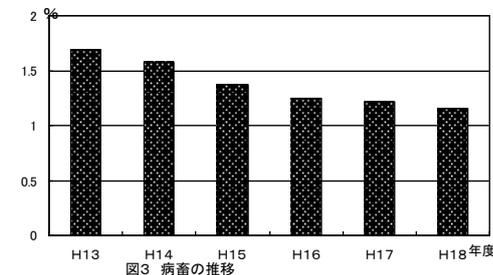


図3 病畜率の推移

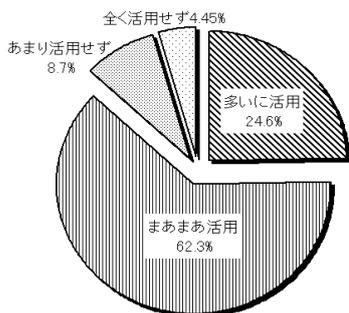


図4 フィードバックの活用の有無

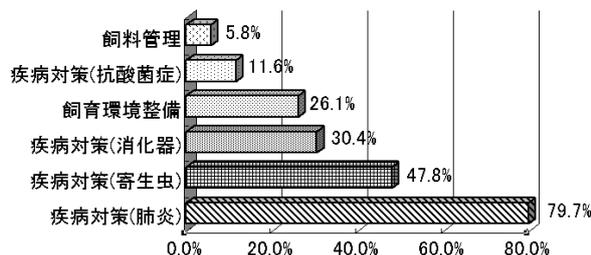


図5 フィードバックの活用内容

肺炎対策にと畜検査結果を活用している農家の肺炎による廃棄率については、多いに活用している農家（図6）、まあまあ活用している農家共に有意な減少を認めた（ $P < 0.01$ ）が、全く活用していない農家（図7）では認めなかった。このことから、と畜検査結果は肺炎対策への有用な情報となっていることが考えられた。

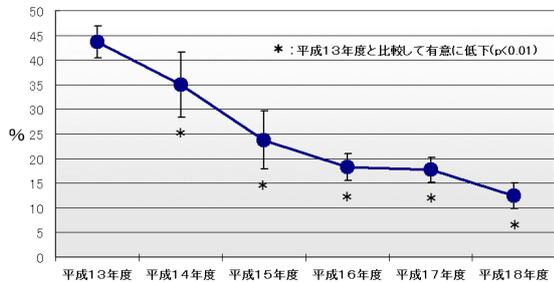


図6 肺炎の推移(多いに活用)

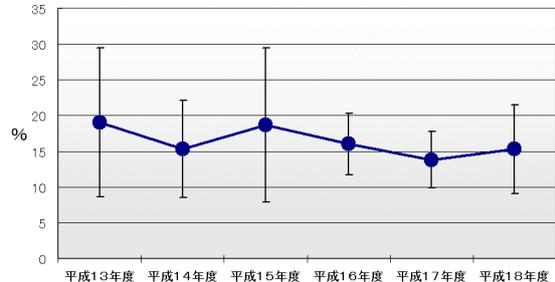


図7 肺炎の推移(全く活用せず)

他の疾病については廃棄率の減少を認めなかったが、これらの疾病は肺炎に比べて生産性への影響がそれほど大きくないことや、疾病損失と治療・蔓延防止等の対策に掛かる費用を比較して、対策に踏み切る生産農家が少ないことも原因の一つとして考えられた。しかしながら、と畜検査結果を基に家畜臨床獣医師と連携し対策に取り組んだ農家では、抗酸菌症や寄生虫病等の清浄化に成功した事例（図8，9）もあり、と畜検査結果の活用が有効な疾病対策につながっていた。以上のことから当所が行うフィードバック事業が生産農家の疾病対策に大きな役割を果たすことが確認できた。

今年度は、全部廃棄処分を行った獣畜に関すると畜検査成績書の交付、一部廃棄疾病を解説したパンフレットの作成・配布等にも積極的に取り組み、生産農家がより活用しやすいフィードバック事業を展開している。また、今後は重要度の高いと考えられる肺炎データの内容を強化し、フィードバック事業の効果を高めていけるよう現在計画中である。

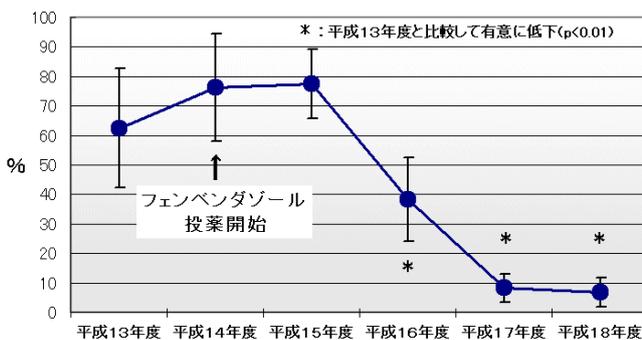


図8 寄生虫性肝炎の対策を取ったA農家の例

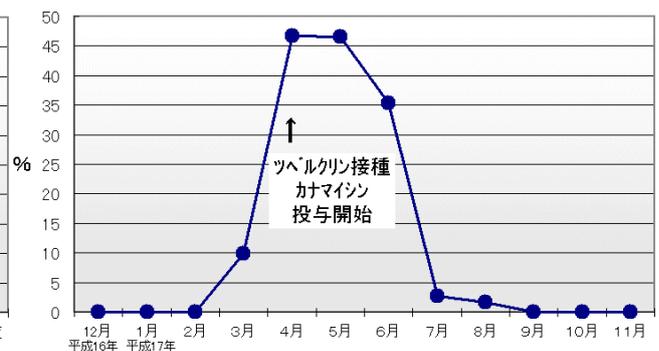


図9 抗酸菌症の対策を取ったB農家の例